

第91回 東葛しぜん観察会

新緑の森を歩こう！自然観察 in 県民の森

林 信子（船橋市）

日 時：2013年5月5日（日）9:50～12:00 天気：晴れ

場 所：船橋県民の森（船橋市）セラピーコース

参加者：一般 21名（内 子ども 4名）指導員 26名

担当指導員：高野満里子 小川洋子 林 信子

この森は、都市化が進み住宅や工場が増え、森がだんだん減ってきた中、土地を所有する方の協力を得て、緑地保全のため、船橋県民の森という名称で昭和53年4月に設置されました。千葉県内6か所ある県民の森の中で最も都市に近い森です。昔はこの辺りに「行行林」（おどろばやし）という地名がありました。今でも行々林入口というバス停があります。昔は“行けども行けども林が続くので驚いてしまうところ”だったのだそうです。

晴天で新緑が美しく、キンラン・ギンラン咲き乱れる中での観察会となりました。もうそれだけで自然が満喫でき、森の木々に包み込まれ、普段の街の喧騒からは離れられ、心身ともにリフレッシュしながら歩くことができました。

絶滅危惧種のキンランが至る所に咲いています。絶滅が危惧されるようになったのはキンランが生きていける環境の雑木林の減少が第一ですが、心無い人たちの盗掘も無視できません。キンランは葉緑素を持っており自分で光合成をして澱粉を作り出していますが、それでは足りず、ラン菌根と呼ばれる独特の菌根をつくり、生きたコナラなどの樹木の根に共生している外生菌根菌から栄養をもらっていることをお話ししました。そこでキンランが生きていくためには、生きた樹木、菌根菌、キンランの3者が必要なので、盗掘していってもやがては消えてしまう事を分かってもらいました。

ナルコユリ（クサスギカズラ科）、ホウチャクソウ・チゴユリ（イヌサフラン科）、ヤマユリ、も随所に見られます。いずれもユリ科だった植物です。近頃、DNA解析ができるようになり、葉緑体の遺伝子情報により発生系統を分類してみると、ユリ科がいくつもの科に分割されました。チゴユリなどいつでもどこにでもある植物と思っていましたが、気が付いてみるとあった場所が開発されて無くなっていますが、ここで見られてほっとしています。

この環境を残していくかどうかは、子ども達にかかっています。小さいうちに自然に親しみ、自然を好きになってもらい、人間もその一部にすぎない、という思いを持ってもらいたいものです。保護者なしで子どもだけの班を作り、「見つけた虫がものすごくジャンプできたので、びっくり」、「ドングリを拾ってみたら105個もあって、今度来たら帽子をかぶっているドングリをもっといっぱい見つけたい」という感想をもらいました。

他には、ヤブコウジの背が伸びない秘密の話や、渡りの途中に立ち寄ったオオルリの声を聴いたり、新緑のヤマコウバシの匂いを嗅ぎ、ハリギリの刺にさわったり、イヌシデ、エノキの芽出しを見つけ可愛い双葉の様子などを観察しました。



ヤブコウジのお話し